

2015アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名[金沢市立額小学校] 担当教諭名[山田 真由] (6年1組 31名)

交流相手国[フィリピン]

海外学校名[Philippine Nikkei Jin Kai International School] 担当教諭名[Jovilline Joyce]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	金沢から世界の発展を考える	30
	社会	世界の未来と日本の役割	2

■作品について教えてください。

題 (テーマ)	言葉の壁をこえて心でつながろう
絵に込めたメッセージ	言葉の壁を越えて「思いを伝える」のは難しいことだが、心でつながることが一番大切であると考えたことから、絵の中央にハートを描いた。そして、互いの国を理解し合いたいという想いを込めて自国を象徴する絵を描いた。



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
日本以外の国に友だちができたことで子どもたちは世界の中の日本にいることを意識できたようだった。また、パートナー校がフィリピンの国についてだけでなく、他国にも関心を持ち、インターネットや図書館の本で探す姿も見られ、国際化の意識が高まったようである。	子どもたちは、フィリピン(パートナー校)の友だちともっと交流を重ねたかったようだ。しかし、返事がなかったため、テレビ電話などでの交流はできなかった。今後は、もっと相手校の担任の先生に直接もっとアポイントをとる必要があると感じた。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手国や世界に対しての意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
初め子どもたちにとっては、相手国が世界地図のどこにあるかも分からず、関心がなかった。しかし、相手国の友だちと自己紹介をしたり、自分たちの国について交流したりする中で、「もっと相手の国について知りたい。」「もっと日本の良さを伝えたい。」と言う気持ちになり、学習を終える頃には意欲が高まっていた。	アートマイル活動を通して、子どもたちが英語を活用する場が増えたりインターネットを活用したりする機会が多かった。こうした経験を重ねることで、子どもたちは確実に以前より英語に慣れ、パソコンの使い方が分かるようになったと感じた。こうした、世界とつながる活動が、今後の社会を担う子どもたちには重要となると感じた。

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活 動 内 容	児童生徒の反応	実施教科等
自己紹介	9月	自分たちの自己紹介文を英文にし、写真と一緒にフォーラムにアップした。また、相手国からも同じように自己紹介文が返ってきた。	自分たちの自己紹介文を送るときに自分のことを知って欲しい気持ちが強く、一生懸命自分の得意なことを英文に訳していた。また、相手からの返事に喜んでいた。	総合
テーマ学習	10月	石川県金沢市の祭りについて調べた。自分たちの住む県・市の祭りにもまだまだ知らなかったことがあり、詳しく調べたうえで相手国に伝えた。	自分たちの住む県・市の祭りにもまだまだ知らなかったことがあり、驚いていた。調べるうちに自分たちの故郷の祭りに参加してみたいという声が多く聞かれた。	総合 社会
構図決定	11月	グループに分かれて構図を考えた。話し合いの中で自国の良さを伝えようと伝統工芸品や国旗、地図などを絵に盛りこむことを決定した。	話し合う中で、どのように絵を構成するか悩んでいた。石川県の北陸新幹線は日本が誇る鉄道技術を駆使したものであるために入れることが決定した。	総合
壁画制作	12月	グループごとに各部分の担当を決めた。全員で一斉に書くことは難しかったため、部分ごとにつながるのあるグループ同士で作業を進めた。	壁画制作を始めた頃は、互いに声を掛け合うことが少なく打ち合わせが上手くいかないこともあったが、次第に連携をとれるようになっていった。	総合
鑑賞・振り返り	3月	フィリピンから返ってきた絵を見て、互いに思ったことを話し合った。友だちの意見を聞きながら様々なとらえ方に耳を傾けていた。	自分たちの描いた絵の続きを相手国が完成させてくれたことを思い、気持ちが一つになったような気がするという意見が聞かれた。	総合

■学習目標(つきたい力)と成果(ついた力)について教えてください。

「目標」先生が指導に当たって重視したことをABCで記入（A:特に重視した B:重視した C:特に重視しなかった）

「成果」先生の手応え（5:とても身についた 4:身についた 3:どちらともいえない 2:あまり身につかなかった 1:身につかなかった）

学習目標・つきたい力	目標	成果	成果についてそう感じた場面・理由
自文化の理解	A	5	相手国の方に日本の良さを知ってもらいたいと、インターネットや本を用いて調べ活動を行った。活動後の感想に、「自分たちも知らないことがあった」と驚く児童がいた。
異文化の理解	A	4	相手国からきた写真をみたり、調べたりする中で、自分たちの国の様子との違いを知れたことに喜びを感じていた。
コミュニケーション力 (説明・共感・英語)	B	5	英語を実際に活用する場が設定されたことで、必要感を感じられた。以前より外国語学習に意欲的に参加するようになった。
情報活用能力 (情報収集・発信)	B	4	インターネットや本からの情報を集めると、書いてあることがそれぞれ異なる場合もあることを知った。より多くの情報を集めようとキーワードを考え検索していた。
人間関係をつくる (学級内・交流相手)	A	5	交流相手とのコミュニケーションは少なかったが、互いの自己紹介文を送り合ったことで、親近感が湧き自分たちのパートナーとコミュニケーションを取りたがっていた。
協働する力 (役割分担・協力)	B	5	これまでは、クラス全体の一体感が弱く、周囲のことを考えて行動できる児童が少なかったが、活動を通して一つのことに向かって協力する姿が生まれた。
学習を追究する意欲	B	4	パートナーの国に関してだけでなく、他国の様子にも興味を持ち始めたため、調べ活動を行った。
表現力 (伝えたいことを絵で表す)	B	5	初め、自分たちの思いを一つの絵に表すのに意見がまとまらなかったが、その児童も自分の国の良さを伝えようとしており、意見を合わせていくことができた。
作品を鑑賞する力	B	4	自国の絵を一方的に描いて送るのではなく、相手国と協力して1つの絵を完成させたことで、海の向こうにいる友だちの存在を実感することができた。